

■取付けされる方へのお願い

- 本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害、軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 吊車の本体への取付けは、吊車の操作レバーが水平になるまで押し込んでください。押し込み後、引張って抜けないことを確認してください。押し込みが足りないと、本体が落下するおそれがあります。
- 上レールは仮固定ですので、必ず指定のねじで躯体へ固定してください。本体が落下するおそれがあります。
- 本体へはもたれかからないようにしてください。本体が外れ、転倒しケガの原因になります。
- 枠固定金具が柱に固定されていることを確認してください。固定ねじの締め忘れは、枠・本体の脱落の原因になります。
- 取付け調整後、本体下部の振れ止め部品の下レールへのかかりが5mm以上あるか確認してください。本体が下レールから外れやすくなり、ケガや故障の原因になります。

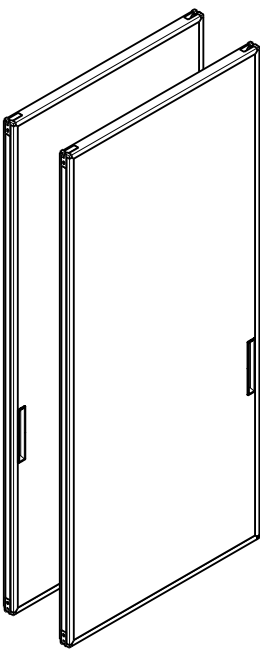
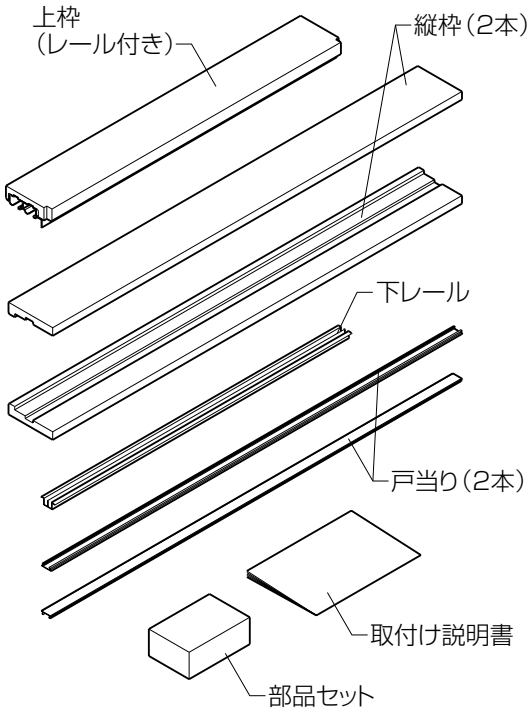
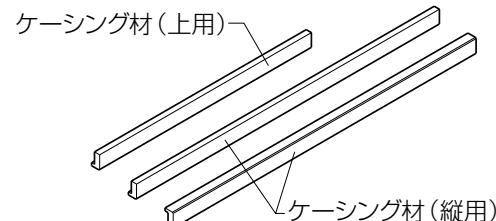
■取付け上のお願い

- 本製品は上吊り方式を採用しています。梁(まぐさ)は、強度を増すため、断面寸法50×180mm以上を使用してください。上枠の垂下がりの原因になります。
- 本体にダンプロンテープ・ゴムテープ・クラフトテープなどの粘着力の強いものを直接張らないでください。養生の際は、マスキングテープなど粘着力の弱いものを使用してください。
- 枠を取付ける際、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤を併用してください。
- かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤を塗布してください。かい木には、合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又は、ノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きのドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎるとねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれる場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 造作材・建具枠の下地材は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用してください。湿潤材は使用しないでください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損するおそれがあります。
- 建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には、必ずすき間をつくって納めてください。縦枠と柱・間柱とのすき間は、枠固定金具を調整してすき間をなくし、内装ボードを必ず縦枠に突きあててください。突きあてができない場合は、かい木を入れてください。上枠とまぐさのすき間にも、必ずかい木を入れてください。
- 建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 運搬・加工の際は、キズ付けないようにていねいに取扱ってください。又、直射日光の当たる場所に開梱状態で置かないでください。ソリ・ねじれの原因になります。
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 枠固定金具の調整範囲(調整幅7mm)をこえる開口部については、必ず柱・間柱・まぐさを入れ、調整範囲を満たすようにしてください。

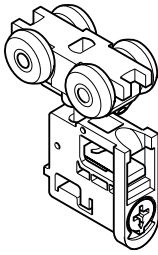
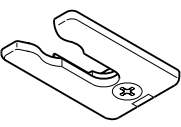
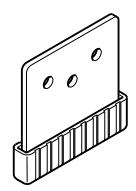
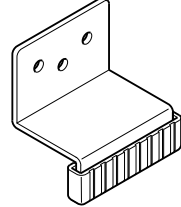
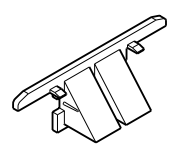
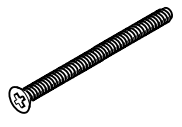
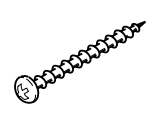
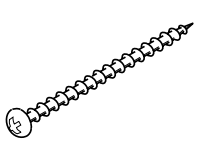
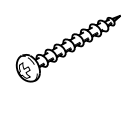
■部材・部品一覧表

※枠はロックダウン、本体は完成品です。

■部材一覧表

本体	枠(引違い2枚建・引違い3枚建用)
 <ul style="list-style-type: none"> ●1枚梱包×2/引違い2枚建用 (R・L用各1枚ずつ) ●1枚梱包×3/引違い3枚建用 (R・L・中間用各1枚ずつ) 	 <p>上枠 (レール付き) 縦枠 (2本) 下レール 戸当り (2本) 取付け説明書 部品セット</p>
	<p>ケーシング(ケーシング付タイプのみ)</p>  <p>ケーシング材(上用) ケーシング材(縦用)</p>

■部品一覧表

名称	吊車	キャッチ	振れ止めA (取付けねじ付)	振れ止めB (取付けねじ付)
姿図				
引違い2枚建用	4	2	2	2
引違い3枚建用	6	2	2	4
名称	下レールスペーサー	皿小ねじM4×50 (上枠・縦枠組立て用)	ナベタッピンねじφ4×40 (枠固定金具取付け用)	
姿図				
引違い2枚建用	2	4	6	
引違い3枚建用	2	4	6	
名称	トラスタッピンねじφ4×60 (上枠躯体取付け用)	ナベタッピンねじφ3×25 (下レール取付け用)		
姿図				
引違い2枚建用	5	3		
引違い3枚建用	7	5		

■開口部の作り方

■開口部寸法の出し方

開口A寸法=製品寸法(W)+5mm

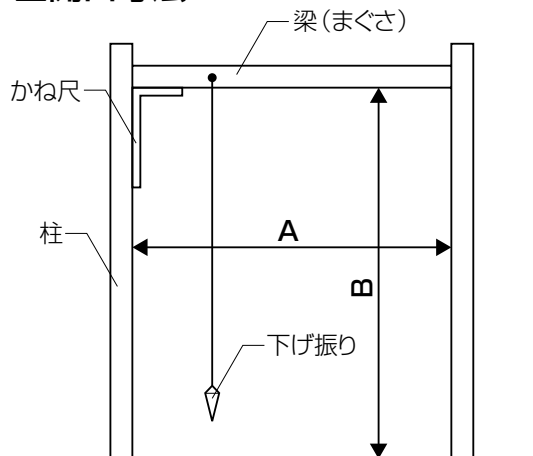
開口B寸法=製品寸法(H)+5mm

※開口部の水平・垂直を正しく出してください。

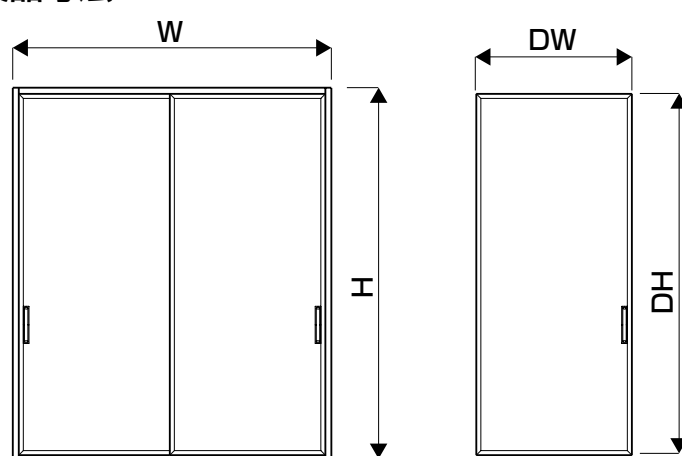
※本製品は、上吊り方式を採用しています。

梁(まぐさ)は、強度を要するため、断面寸法 50×180(mm)以上を使用してください。

■開口寸法



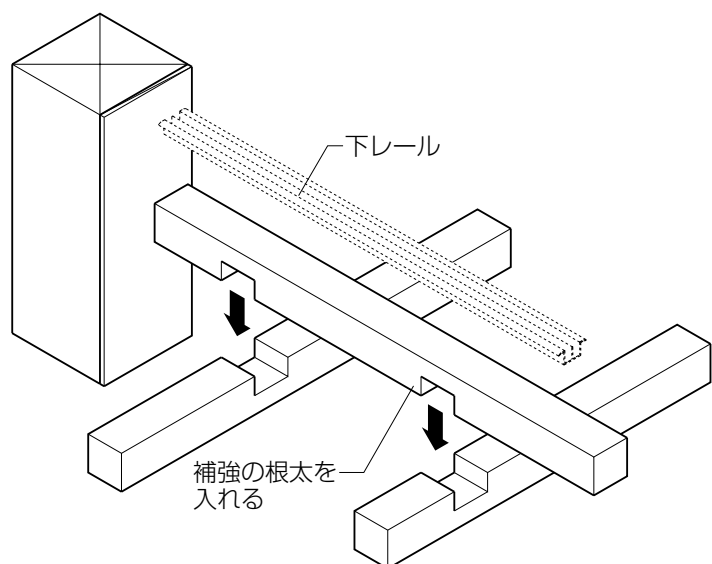
■製品寸法



■床の張り方

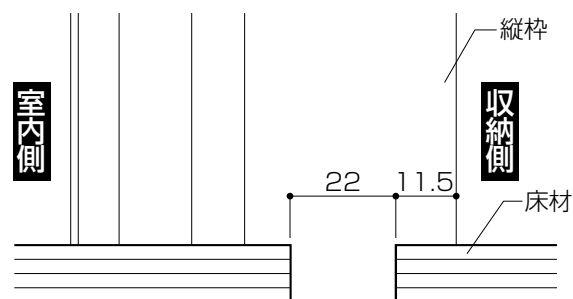
■下レール下地の確認

●枠材は捨て張り合板の上に施工するか、根太張り工法の場合は下図のように根太を入れて補強してから施工してください。下レールの破損や本体開閉不具合の原因となります。



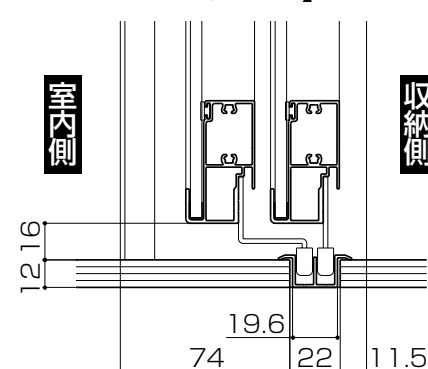
■床張り位置

※床材は、縦枠の収納側端部より11.5mm内側に入ったところに22mmあけて張ってください。

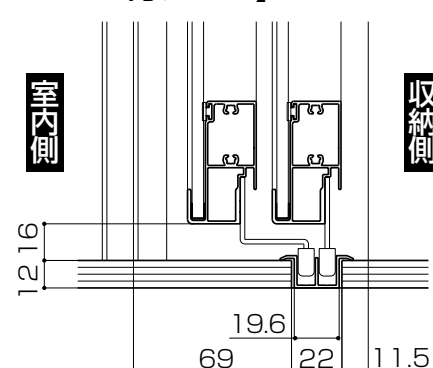


お願い
※床材は必ず上図の位置に張込んでください。床材の開口寸法が大きすぎたり狭すぎると、床のすき間が見えたり下レールが入りにくい原因となります。

【ノンケーシングタイプ】



【ケーシング付タイプ】



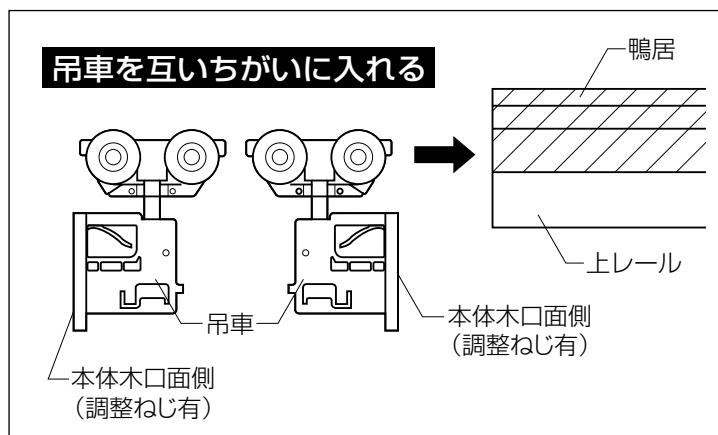
■取付け順序

■1 枠の組立て

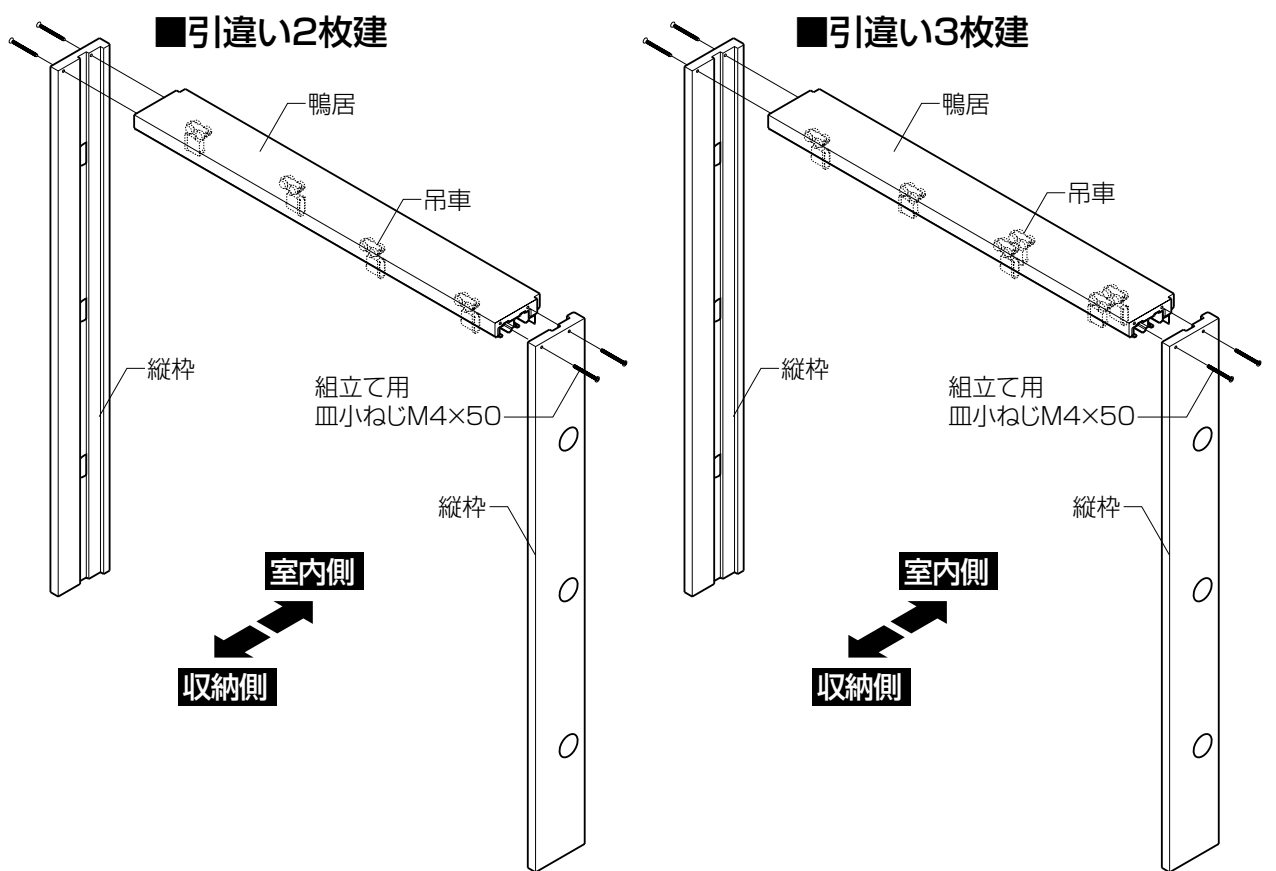
①吊車を互い違いの向きにして、上レールに入れてください。

お願い

※枠組立て前に鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車の入れ方をまちがえると本体の吊込みおよび建付け調整ができません。



②右図のように、各部材を組合わせ、同梱のねじ(皿小ねじM4×50)で固定します。



■2 枠の取付け

①縦枠に取付けられている枠固定金具(縦枠に3個取付け)の調整ねじを時計回りに回し、金具を均等に出してください。

②枠の垂直を確認してください。

③固定ねじ(ナベタッピンねじφ4×40)を枠固定金具の長穴中央部分より締付けてください。

④枠の奥行方向のたおれを確認してください。たおれている場合は固定ねじをゆるめ、枠を動かします。(奥行方向の調整幅は6mmです)調整後ねじを固定してください。

⑤枠の垂直を確認してから、枠固定金具の取付いている部分の開口寸法が均等になるように調整してください。

⑥再度、枠の垂直を確認してください。

お願い

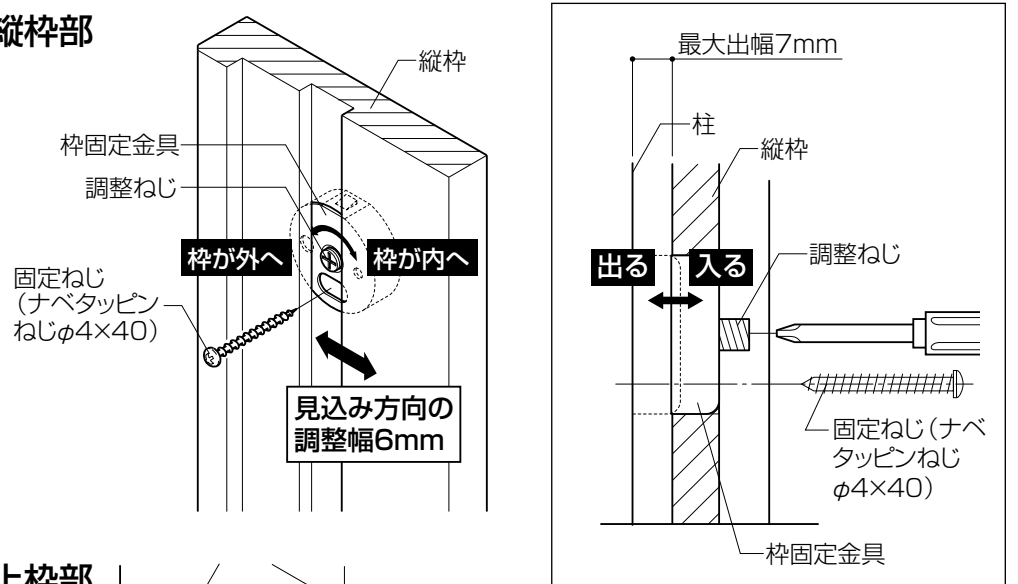
※枠固定金具の調整には電動ドライバーは使用しないでください。
※必ず内装ボードは縦枠に突きあてて施工してください。突きあてができない場合は必ずかい木を入れてください。

⑦鴨居はかい木を入れて、上レールの穴からトラスタッピンねじφ4×60で躯体に固定してください。

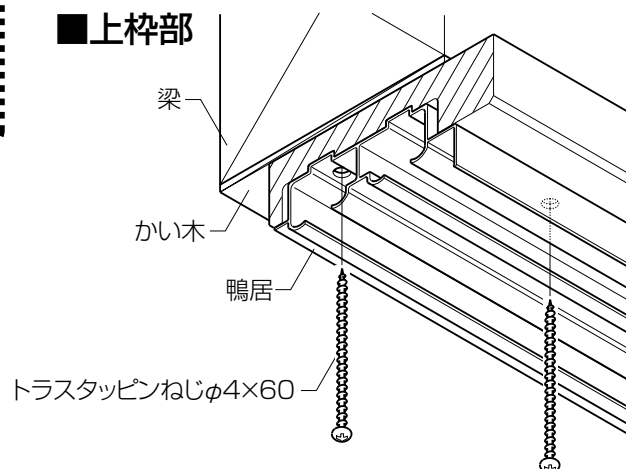
お願い

※鴨居の躯体固定ねじを締め込みすぎると、本体の動きが悪くなる場合があります。本体を吊込んだ時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。

■縦枠部



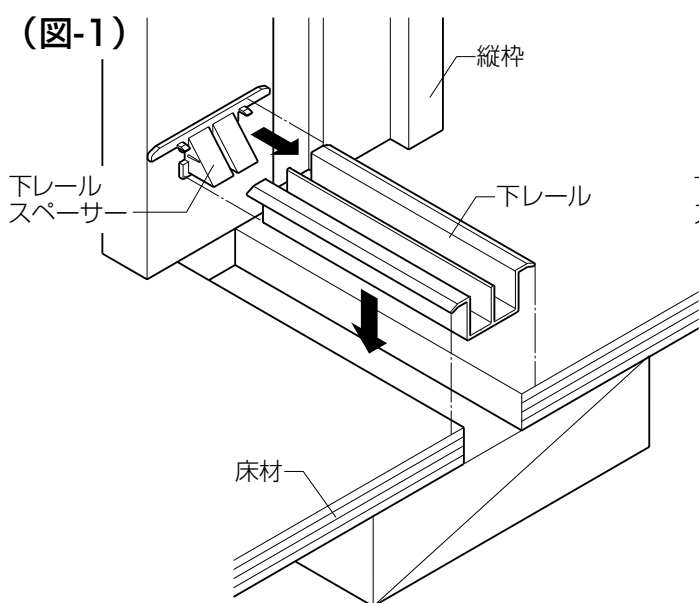
■上枠部



■3 下レールの取付け

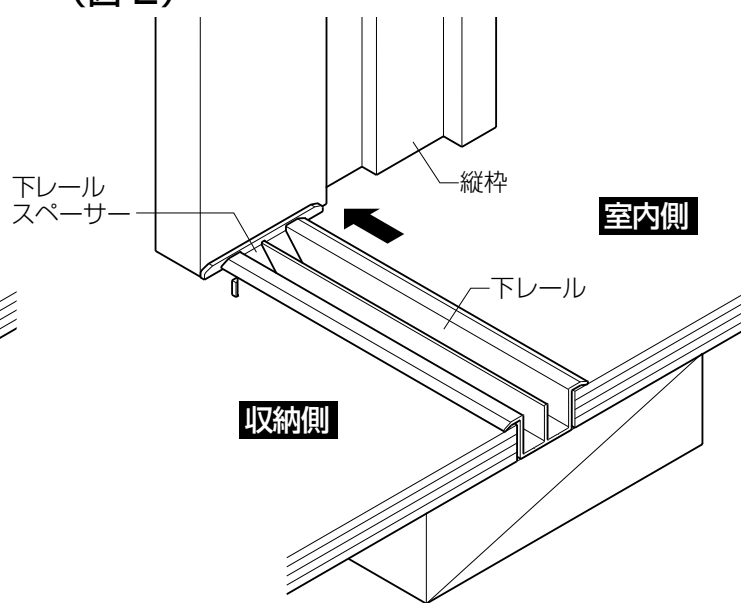
①下レールスペーサーを取付けた状態で、床に埋込みます。(図-1)

(図-1)



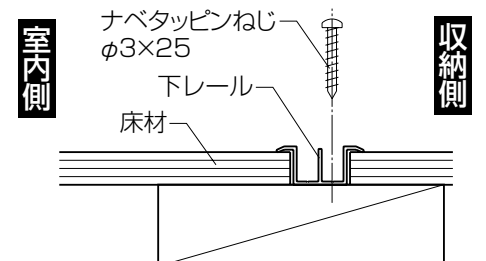
②(図-2)のように縦枠の収納側端部に下レールスペーサーの端部を合わせます。

(図-2)

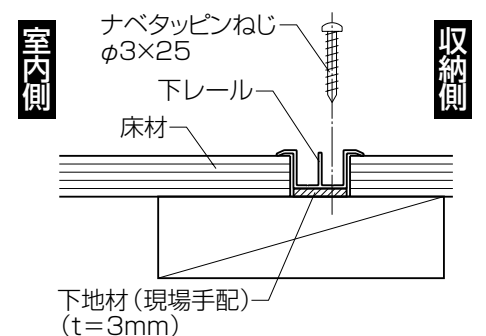


③下レールをねじ(ナベタッピンねじφ3×25)で固定します。(図-3)

【床材厚さ12mm】(図-3)

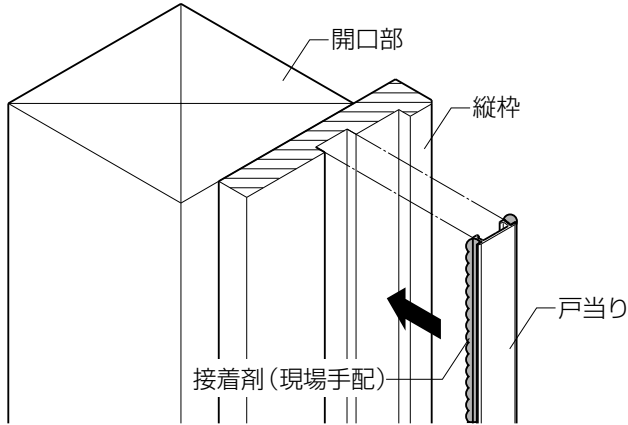


【床材厚さ15mm】



4 戸当りの取付け

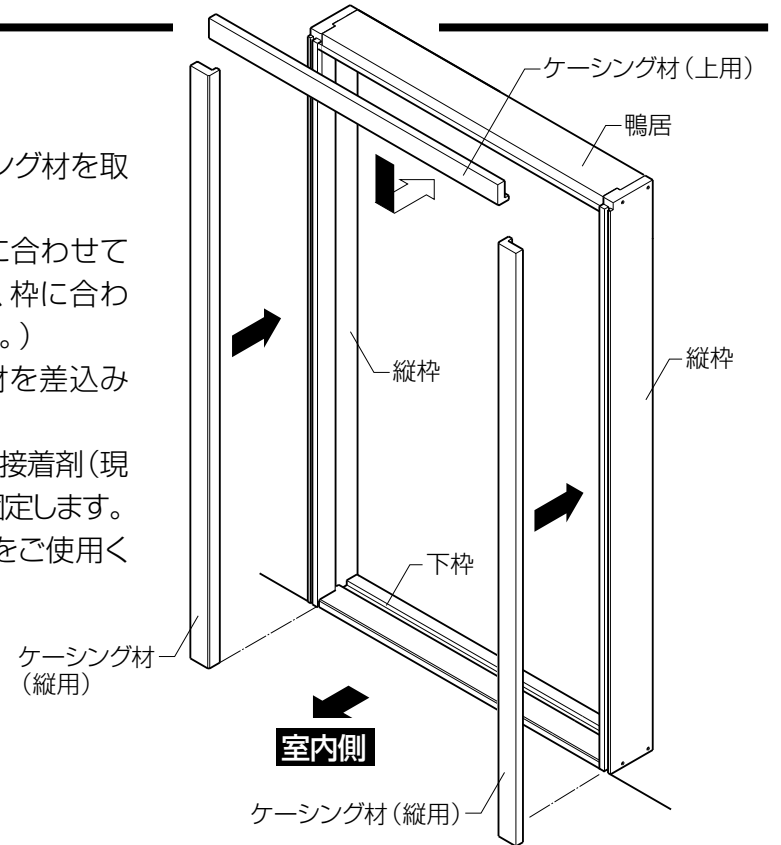
- ①戸当りに接着剤(現場手配)を付けて、溝をふさぎます。
 ※戸当りは、必ず下枠取付け後に取付けてください。
 ※戸当りが長い場合は、無理に入れずに必要量を切詰めてください。
 ※戸当りの接着は、必ず枠の建付け完了後に行ってください。



5 ケーシング材の取付け

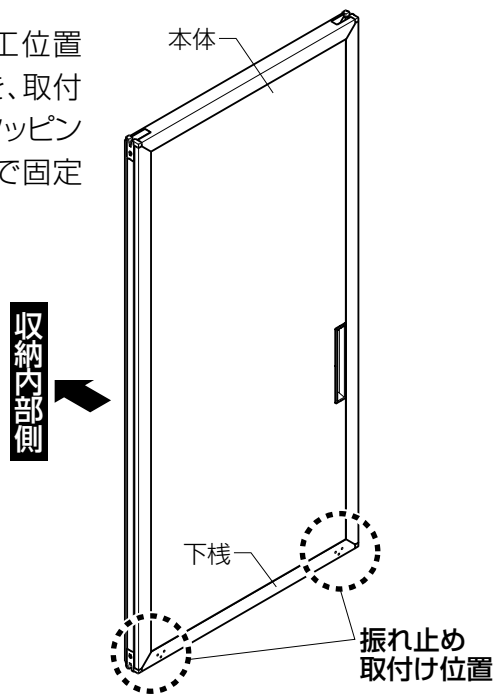
【ケーシング付タイプのみ】

- ※壁材・床材を仕上げからケーシング材を取付けてください。
 ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。(上用ケーシングは、枠に合わせてあらかじめカットしてあります。)
 ②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
 ③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、ケーシング材を固定します。
 ※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。

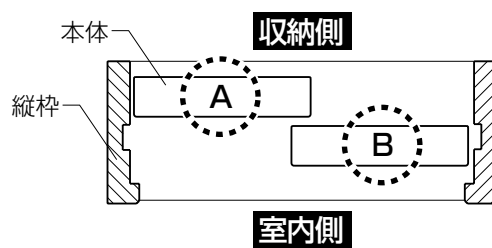


6 本体の吊込み

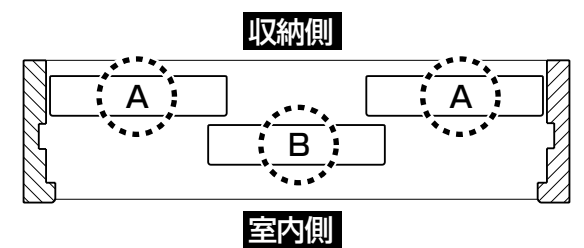
- ①本体下枠の穴加工位置に振れ止め部品を、取付けねじ(バインドタッピンねじφ3.5×14)で固定します。



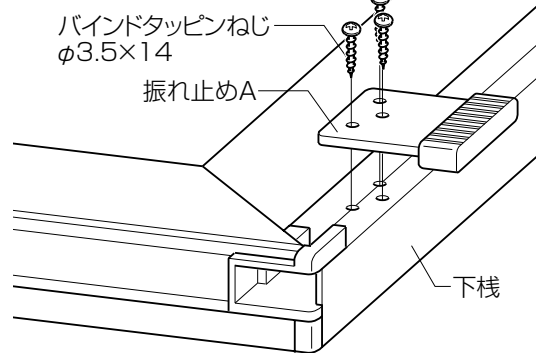
【引違い2枚建の場合】



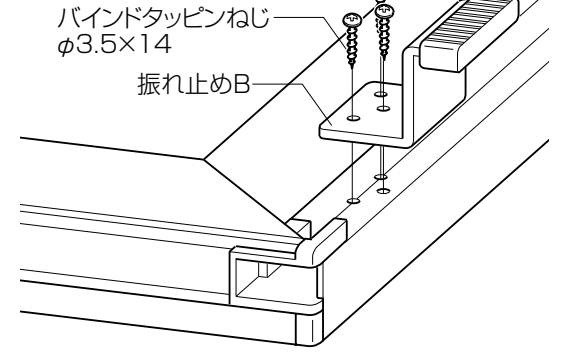
【引違い3枚建の場合】



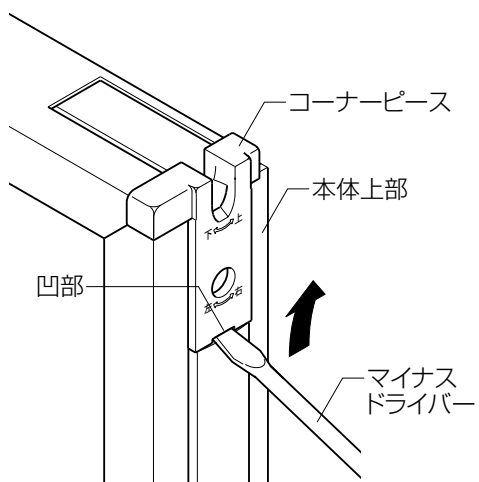
【振れ止めA】



【振れ止めB】



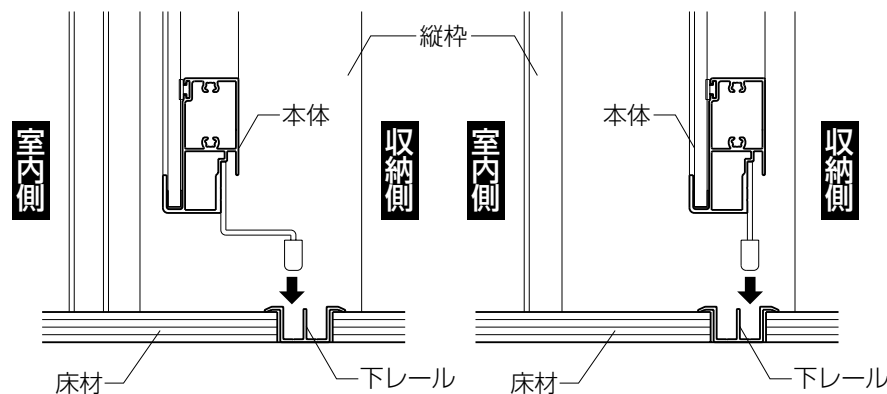
- ②本体上部のコーナーピースの凹部に、マイナスドライバーを突きあて、矢印の方向に引き、コーナーピースを取外します。



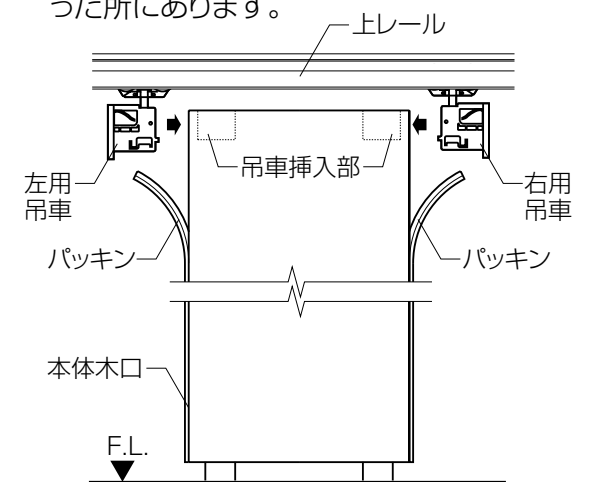
- ③本体を上げて、下レールの溝に振れ止め部品を入れます。

【室内側寄りの扉】

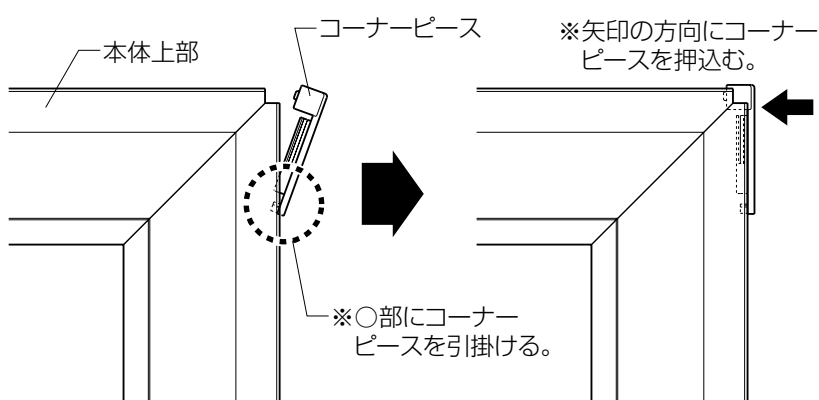
【収納側寄りの扉】



- ④パッキンをめくり、吊車を取付けます。片側ずつ吊車を本体に水平に押し込むと、ワンタッチで取付けられます。
 ※吊車の挿入部は、本体木口面より奥に入った所にあります。

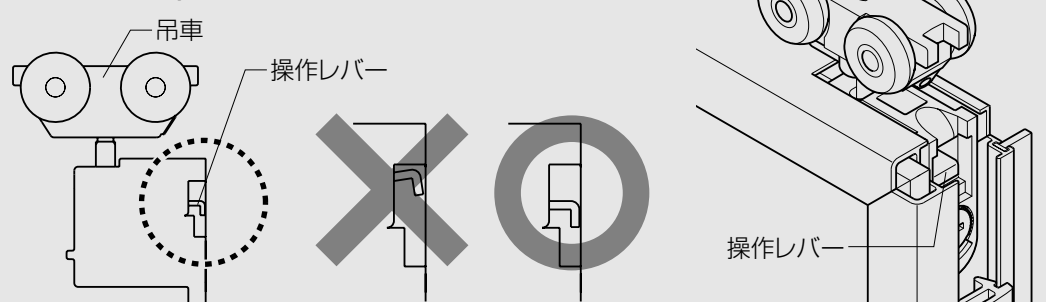


- ⑤再度、コーナーピースを、下図の要領で取付けます。



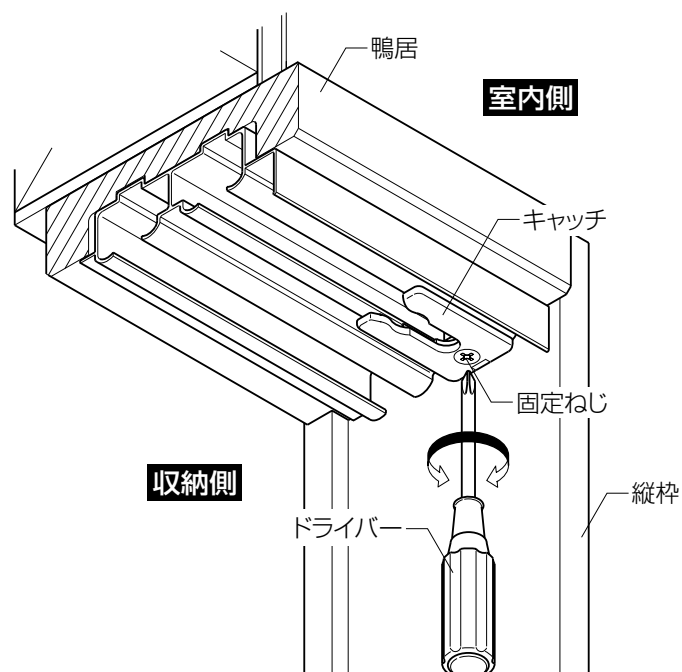
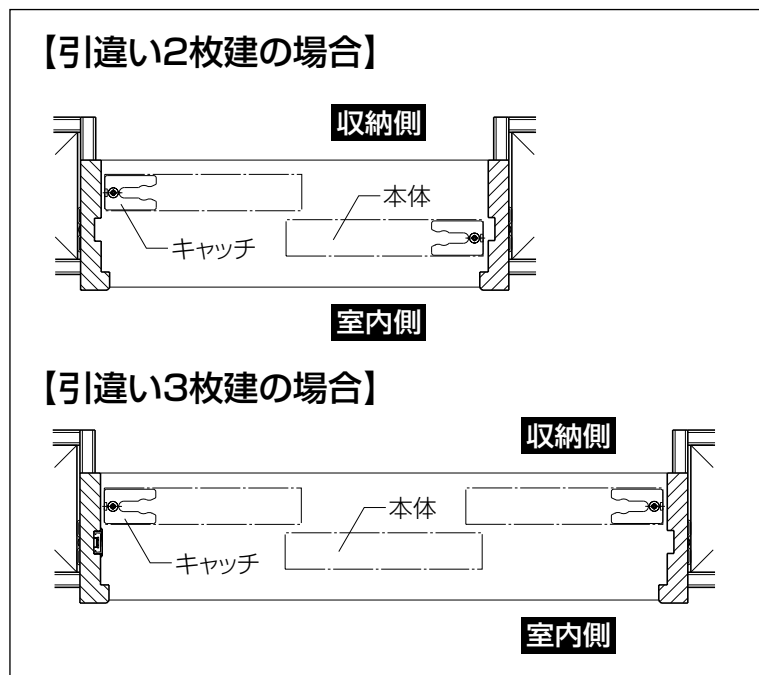
▲注意

- 吊車の本体への取付けは、吊車の操作レバーが水平になるまで押し込んでください。



7 キャッチの取付け

- キャッチを上レールの指定の位置で、縦枠に突きあてて取付けます。



■本体の建付け調整

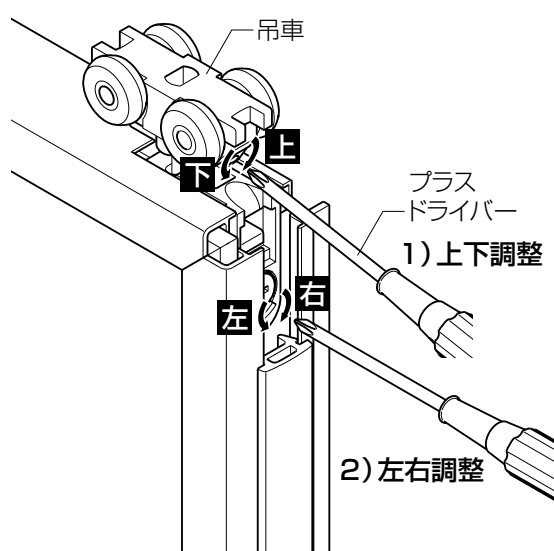
※本体の吊車には、上下方向および前後方向の調整機能が付いています。

1) 上下調整 (調整幅+4mm、-1mm)

- プラスドライバーで、吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が下がり、左に回すと本体が上がります。
- ※床面と本体下部とのチリ寸法は、16mmが標準です。
- ※本体を下げすぎると振れ止めと、下レール取付けねじが当たりますので、下げすぎないでください。

2) 前後調整 (±2mm)

- 前後調整はプラスドライバーで、吊車下部の調整ねじを右に回すと本体が右へ動き、左に回すと本体が左に動きます。



■本体の取外し方法

- 本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押し上げます。次に吊車を本体の内部ケースより引抜き、取外します。

